

# 建設会報 いずも



No.136

2023年

新春号



## 表紙の言葉



今年は兎年、うさぎは穏やか温厚なイメージとかわいらしさから、ペットとして人気があり様々な種類が飼育されています。

「因幡の白兎」のお話では鯨の数を数えてあげるといって、背中をジャンプして海を渡ったことで知られています。

うさぎのジャンプ力は、種類によって異なりますが専門家によると、およそ2.7mから最大で4.5m近く跳ぶことが出来るといわれています。

跳ねるという特徴があるために景気好転、回復、株式相場が上がる縁起のいい年として知られています。

今年こそ大いにジャンプして新型コロナ、円安、物価高の三重苦を跳ね除けてほしいものです。

えと文 / 渡部良治

# Contents

- 
- 01 巻頭言 梶野 直宏〔一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会会長〕
- 
- 03 新年のご挨拶 小谷 哲也〔国土交通省出雲河川事務所長〕
- 
- 04 三嶋 良之〔厚生労働省出雲労働基準監督署長〕
- 
- 05 秦 昭博〔出雲警察署長〕
- 
- 06 高橋 洋二〔出雲県土整備事務所長〕
- 
- 07 年男の抱負 日下 雅彦〔クサカ建設(株)〕
- 
- 08 森山 竜人〔(株)もりやま〕
- 
- 09 令和4年度 優良工事等表彰 表彰一覧
- 
- 11 優良工事知事表彰を受賞して 星野 敏郎〔(株)神田工業〕
- 
- 12 優良工事知事表彰を受賞して 玉木 慎吾〔(株)コスモ建設コンサルタント〕
- 
- 13 優良工事知事表彰を受賞して 伊藤 正彦〔山陰建設工業(株)〕
- 
- 14 全国建災防大会に参加し思うこと 安全委員 仙田 考生〔山陰建設工業(株)〕
- 
- 15 建災防活動〈安全パトロール・安全研修会〉
- 
- 17 視察研修旅行 経営改善研究委員 手銭 弘明〔(有)神門組〕
- 
- 18 経営研修会2022 経営改善研究委員 山根 強〔(有)山根建設〕
- 
- 19 放水路記念館まつり
- 
- 20 インターンシップ体験談
- 
- 22 お知らせ 出雲建設会館の利用のご案内
- 
- 23 編集後記 経営改善研究委員 三島 一男〔ミシマ産業(株)〕
-



令和5年 年頭所感

# 飛躍する一年に…！



一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会

会長 柁野 直宏

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、協会員の皆さまならびにご家族の皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、依然として新型コロナウイルスの影響が残る年となりました。またロシアによるウクライナ侵攻という歴史的な出来事を契機に、燃料や資材の高騰が進み、加えて急激な円安で私達の日々の生活にも直接的な影響を受ける年となりました。ただ、先頃開催されたサッカーワールドカップで日本代表は、目標のベスト8には届かなかったものの強豪国を撃破、これら勝利は逆境に立ち向かう「日本魂」を世界に轟かす、日本にとって喜ばしい出来事でした。混沌とした厳しい時代である中、「日本魂」が今こそ必要だと感じた次第です。

さて、ご承知のとおり令和5年は十二支で「卯年」にあたります。卯年は一説によれば、芽を出した植物は茎や葉が大きく成長する時期にあたり、また動物であるウサギの如く飛び跳ねることから飛躍する年と言われているそうです。



年頭にあたり島根県出雲地区建設業協会も新たな一步を踏み出し飛躍する年にしなければなりません。私達建設業においては1年後に迫った「働き方改革」への取組みは「待ったなし」の状況で、例えば時間外労働は、「上限なし」から「原則月45時間、年360時間」と法律により上限が設定されることになります。建設業協会としても真剣に取り組むべき重要な課題だと認識しており、発注者側とも協力し、特に公共工事では「4週8休運動」を強力に推進して参ります。

一方、時間外労働や有休休暇の確実な取得など働く側の環境整備は、今後、建設業が若い人達の有力な就職先の選択肢となるためにも取組んでいかなければなりません。この他にも様々な諸問題が山積していますが、微力ながら先頭に立たせていただき、協力を得ながら業界一丸となって諸問題解決のため「日本魂」を発揮することで、必ずや解決の道筋が出来ると確信しています。正しくウサギのように飛躍し成長していく年にして行きましょう。

新しい年が皆さま方にとって実り多く充実したものになることを祈念し、年頭のご挨拶といたします。





国土交通省中国地方整備局  
出雲河川事務所

所長 小谷 哲也

### 安全・安心な地域を目指して 斐伊川流域治水プロジェクトの推進

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、日頃より出雲河川事務所が行う様々な取り組みにご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

斐伊川流域では、斐伊川・神戸川治水事業（通称3点セット）のうち、上流の尾原ダムと志津見ダム、中流の斐伊川放水路はすでに運用を開始し、その機能を確実に発揮しております。また、下流の大橋川改修及び中海・宍道湖の湖岸堤整備等につきましても、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら、地域の安全・安心な暮らしを守るべく、着実に整備を促進しているところです。

昨年は、斐伊川流域に戦後最大の洪水被害をもたらした「昭和47年7月豪雨」から50年の節目を迎え、当時の甚大な被害を風化させないため、被災写真や治水対策に関するパネル展を流域内の各地で開催いたしました。

一方、近年は地球温暖化に伴う気候変動の影響による豪雨が全国各地で頻発し、施設能力を超える洪水のため堤防の決壊や内水による浸水被害が多発しています。

このように、激甚化・頻発化・広域化する水災害への対応が急務となる中、これまでの河川改修やダム建設等の治水対策のみではなく、流域の地勢的・地形的特徴を踏まえ、降雨の流出抑制や氾濫源での雨水貯留など、さまざまな施策を有機的に結び付け、流域内の皆様と調整・協力しながら、流域全体で水災害による被害を軽減させる「流域治水」へと大きく施策の転換を図っています。

斐伊川流域におきましても、流域全体で実施すべき治水対策の全体像を「斐伊川水系流域治水プロジェクト」として令和4年3月に策定し、流域の皆様と手を携え各々の取組を積極的に推進しているところです。また、「流域治水」の取組においては、農地や山林などの自然環境が有する多面的な機能を活かすため、グリーンインフラの活用による治水と環境が両立した取組を進めて参ります。

さらに、斐伊川流域の貴重な自然環境を活かした生態系ネットワークの形成により、大型水鳥類が舞う魅力的な流域づくり・自然再生への取組、まちづくりと河川空間が一体となった「かわまちづくり」の整備促進、ダム周辺地域が持つ魅力を持続的に維持・活用するための水源地域ビジョン策定など、さまざまな取組を、地域の皆様方と一緒に推進して参ります。

昨年もコロナ禍で、様々な場面で制約が求められる状況となりましたが、災害時の即応性はもとより、膨大な施設などの日頃の維持管理が重要であることには変わりはなく、地域防災力の向上を図る上で、地元に通じた建設業に携わる皆様方の役割はより大きなものとなっています。

直轄事業においては、働き方改革の1つとして「4週8休」への取組が原則化され、若手技術者や女性技術者などの新たな担い手が増えることを期待するとともに、最新の情報通信技術を活用したインフラDXの推進を通じて、建設業のイメージアップと持続的な発展を期待しております。

最後に、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



厚生労働省島根労働局  
出雲労働基準監督署

署長 三嶋 良之

明けましておめでとうございます。新年を迎え、心よりお慶び申し上げます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会並びに会員の皆様方には、日頃から労働基準行政へのご理解、ご協力、労働災害防止活動へのご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、島根労働局では、平成30年から令和4年までの5年間の中期的な災害防止計画（島根13次防）を策定し、建設業においては、当該期間中の死亡者数の合計を10人以下とする目標値を定め、労働局及び監督署で取り組んできたところですが、令和4年11月末の速報値では、合計11人（当署管内1人）の尊い命が失われる結果となりました。

当署管内の昨年の労働災害（令和4年1月から11月末までの速報値）につきましては、休業4日以上死傷者は全業種で744人（令和3年同期245人）ですが、この増加分は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因するもので、コロナ罹患の死傷者を除けば、令和3年同期と比べ微減となっており、死亡災害は、製造業で1件（令和3年は建設業で1件）発生しています。

このうち、建設業においては、休業4日以上死傷者は40人（令和3年同期39人）で、熱中症に起因する死傷者は0人、コロナ罹患の死傷者は数人となっており、建設現場における熱中症予防と新型コロナウイルス感染防止の対策が図られた結果であると推察しているところ。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症は、未だ終息は見込めない状況ですので、厚生労働省作成の「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」「職場における新型コロナウイルス感染症対策実施のため～取組の5つのポイント～を確認しましょう！」等を活用していただき、引続き新型コロナウイルス感染症対策の徹底をお願いいたします。

また、島根県内では冬期の積雪、凍結、寒冷に起因する転倒災害が12月から2月までの間に集中して発生していることから、冬期の転倒災害を防止するため「STOP! 転倒 しまね冬のゼロ災キャンペーン」を令和4年12月15日から本年2月28日まで実施していますので、転倒災害防止のため、天気予報に気を配り、積雪・凍結が予想される場合は早めに労働者に周知する、駐車場や屋外通路、建物出入口の除雪を実施する等の労働災害防止の取り組みをお願いいたします。

労働条件等の確保に関しては、これまで中小事業主に対しては猶予されてきた時間外・休日労働等の割増賃金について、本年4月1日以降、1か月60時間を超えて労働者に時間外労働をさせた場合は、その超えた時間について5割以上の率で計算した割増賃金を支払わなければなりません。

また、時間外労働の上限規制に関し、その適用が猶予されている建設業においても、令和6年4月1日以降、災害の復旧・復興の事業を除き、上限規制の適用を受けることとなりますので、労働基準関係法令の遵守のための準備もお願いいたします。

最後になりましたが、貴協会並びに会員の皆様方の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。





島根県出雲警察署

署長 秦 昭博

明けましておめでとうございます。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方におかれましては、輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

会員の皆様方には、平素から暴力団排除活動はもとより、警察行政の各般にわたり、ご理解・ご支援を賜っておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、島根県内及び当署管内の治安情勢は、地域ボランティアや関係機関・団体の皆様のおかげをもちまして、刑法犯認知件数は、ピーク時の平成15年から大幅に減少し、戦後最小を記録するなど、数的な面では良い方向に向かっていますが、還付金詐欺をはじめとする特殊詐欺事件の発生は後をたたず、県民、市民の皆様のお安全安心の確保には未だ至っていない状況です。

こうした中、全国の暴力団情勢に目を向けてみますと、構成員等（含む準構成員）は年々減少しており、暴力団対策法や暴力団排除条例を適用した取締りや各種業界と連携した暴力団排除活動によって、暴力団員による覚醒剤等の密売や恐喝等の伝統的な資金獲得活動が困難となっていることが要因であると考えられます。

しかしながらその一方では、取締りや規制から逃れようと、建設業、金融・証券市場へ進出して、企業活動を偽装した活動を行うなど、活動実態を隠蔽する動きが強まっており、その結果として実際の勢力が数字に反映されにくくなっているという背景もあり、統計上の勢力減少だけを見て楽観できる状況ではないと考えます。

また、六代目山口組から離反して出来た神戸山口組、さらには神戸山口組から分裂した任侠山口組（現：絆會）による組織間の対立が続いており、地域社会に対する大きな脅威となっていることから、全国警察を挙げて集中取締りを継続しているところです。六代目山口組と神戸山口組については、対立抗争事件の発生を受けて、引き続き、「特定抗争指定暴力団」に指定するとともに松江市内を「警戒区域」として、事務所の使用を制限するなど、活動を厳しく制限しております。

ここ出雲市においては、皆様方のご協力により長年にわたって、暴力団事務所の進出を許しておりませんが、警戒区域外であることから、今後、暴力団事務所が進出してくる可能性が排除できない状況にあります。

暴力団組織の壊滅は、警察のみでは成し遂げることでできず、これまで県民や事業者の皆様を中心とした暴排組織による様々な活動や、島根県暴力団排除条例に基づく取組により、社会全体から暴力団を排除する環境を整え、皆様方が「暴力団の存在を絶対に許さない」というゆるぎない意思のもとで暴力団と対決した地道な活動を継続されたことが、県内の暴力団勢力の減少傾向に繋がっているものであります。

本年も県警察では、暴力団等反社会的勢力を根絶するため、関係機関との連携を強化し、暴力団排除活動を一層推進するとともに、暴力団の取締りを強力に推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。





島根県出雲県土整備事務所  
所長 高橋 洋二

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方には、平素より島根県行政、とりわけ出雲県土整備事務所が取り組んでいる社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、令和3年7月から8月にかけて発生した豪雨災害では、管内においても道路や河川など131箇所、約29億円の公共土木施設被害が発生しました。令和4年12月末時点で約3割の復旧工事が完了し、現在約5割の箇所で復旧工事を進めているところですが、残る箇所についても早期復旧に努めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をよろしく願います。

つぎに、当事務所として特に力を入れて進めています新内藤川流域4河川の河川整備においては、平成23年度から10年間の集中投資により進めた暫定改修の結果、令和3年の豪雨に際しても家屋浸水被害が大幅に軽減され、治水安全度の確実な向上が確認されました。今後は、新内藤川流域4河川に加え、湯谷川、平田船川、十間川及び高瀬川など市街地の浸水対策についても引き続き重点的に行い、さらなる被害の軽減に努めて参ります。

また、広域ネットワークを形成する道路網の整備や地域課題を解決する道づくりのほか、砂防、港湾、都市計画及び農業基盤等の整備など、管内各地域において着実に社会資本整備を進めているところです。

加えて、落石対策、橋梁耐震化、老朽化対策及び舗装等の修繕など道路維持事業の拡充も図るなど、引き続き、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算などを十分に活用しながら社会資本整備の推進を図って参ります。

建設業は、こうした地域の社会資本整備や維持管理等を支える重要な基幹産業であるとともに、災害時には最前線で安全・安心の確保を担う「地域の守り手」であります。当事務所では、圏域の安全・安心確保や社会基盤の充実を図るとともに、ICT活用による生産性向上、週休2日制度の導入、適正な工期設定や施工時期の平準化など建設業の「働き方改革」にも積極的に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

# 還暦を迎えて

クサカ建設(株)

日下 雅彦



新年あけましておめでとうございます。

今年卯年。お陰様で5回目の年男となり還暦を迎えました。還暦を迎えると同時に弊社クサカ建設(旧グリーン建設)は50周年を迎える節目の年になります。今までお世話になった全ての皆様に感謝を申し上げます。

私は、地区協会ではこの会報の担当委員会でもある経営改善研究委員会の委員をしておりますので、この会報に寄稿することが時々あります。ホームページの会報のバックナンバーを見ましたら12年前の自分が「卯年を迎えて」と題して寄稿していました。当時の自分が何を思い、何を書いたのか全く覚えていませんでしたが、48歳になり自分が建設業の世界に入った当時の過去の過去を振り返る内容を書いていました。

その後の12年間を振り返ってみますと、その年(2011年)の会報が発刊された直後の3月11日には東日本大震災が発生しました。その後、2016年4月16日には熊本地震が発生し、この12年間で2つの大きな地震が起こっています。そして全国のあちこちで豪雨災害も頻繁に起きるようになり、災害の多い12年間となりました。

災害発生後の復興や復旧には我々建設業者は大きく関わっており、なくてはならない産業ではありますが、その反面、高齢化や人手不足、材料の高騰など、厳しさは増しているのが現状です。働き方改革など建設業にはまだまだ乗り越えなければならない課題もたくさんありますが、各社の努力だけでは解決出来ない部分については業界全体で取り組まなければならない課題だと考えています。

元号が令和に変わり、コロナ時代が到来し今年で4年目を迎えるコロナ禍ですが、海外のようにマスクを外して自由に動き回れる日本に早く戻って欲しいと願っています。また、昨年よりロシアのウクライナ侵攻が始まり世界中がその影響を受けています。日本政府の防衛力強化への舵取りも始まり不安の多い年明けとなりましたが、昨年のサッカーワールドカップのような熱い感動が得られる年になって欲しいと願っています。

還暦を迎え、老後の心配もする年頃になりましたが、少しでも自分の時間を増やし、趣味の音楽の時間を楽しみながら次の卯年まで健康で過ごせるよう日々を送っていきたく思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



## 年男の抱負



(株)もりやま

森山 竜人

新年明けましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶び申し上げます。

本年は私にとって4回目の年男を迎える年となりました。アラフィフと言えはういぶん先のことだと思っていた若かりし頃を思い出しながらキーボードを叩いているところです。

ここ3年はコロナ禍により、人々がフラストレーションを溜める毎日で、生活や経済活動も停滞しています。早くコロナ前の生活に戻っていくのを切に願う日々です。

掲題にもあるように今年の自分とは考えてみる前に、このひと廻りの間にあった身の回りのできごとを遡ってみることにしました。R3の7月豪雨災害やR2の年末の大雪。そこから以前にあったできごとが出てきません。私の40代はただひたすらに目の前にある事柄にいっぱいいっぱいだったような気がします。よく言えば行雲流水でしょうか。雲や水のように時の流れとともに流れていきました。ですがその間に撒いたタネは必ずある、実ってくるものと思います。実がなるのはもうひと廻り先かもしれませんが、時代の波に乗り遅れないよう取り組んでいきたいと思っています。

これからの将来は社会資本の整備とともに、老朽化する建設に係わるもののメンテナンスや防災のための国土強靱化が必須となります。災害や大雪時の対応とともに我々建設業の役割は益々大きくなっていきます。

そのための第一歩として労働力の確保のための魅力発信を会員企業が一体となって行っていかなければならないと思います。

ICTの活用やデジタル化、ドローンによる3次元化など省力化による取り組みが行われていますが、新たな「3K」多くの「給与」「休暇」「希望」の持てる建設業に向かって早足で取り組んでいかなければなりません。

この節目に当たり、改めて我々建設業の担う役割と責任を果たしこの地域の「安心」「安全」を守るため、その使命感を持って務めてまいりたいと思います。

最後になりましたが会員企業の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。

## 令和4年度（令和3年度完了） 島根県優良工事等知事表彰

### ◇ 優秀建設技術者表彰 （優良工事知事表彰）

部門	工種	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者
土木	道路	出雲三刀屋線（船津工区） 防安交付金（改築）工事 第4期	大福工業 株式会社 代表取締役 福代 明正	岩佐 卓弥
		外園高松線（下横工区） 防安交付金（改築）工事 第5期	株式会社 トガノ建設 代表取締役 桐野 直宏	飯濱 健
		国道431号（園工区） 防安交付金（災害防除）工事 第3期	株式会社 神田工業 代表取締役 神田 光夫	星野 敏郎
		十六島直江停車場線 西代橋 防安交付金（橋梁耐震）工事 第3期	出雲土建 株式会社 代表取締役 石飛 裕司	鬼村 勝則
	河川	十間川 防安交付金（広域河川）工事 第8期	株式会社 ナカサン 代表取締役 中筋 雄三	田中 誠也
	港湾 空港	河下港 港湾改修工事 第23期	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	昌子 公太
	砂防	大谷地区 事業間連携砂防等事業 （地すべり対策）工事 第10期	株式会社 コスモ建設コンサルタント 代表取締役 高島 俊司	玉木 慎吾
農林 水産	農業 土木	令和2年度 農地整備事業 簸川西地区 舗装工事	山陰建設工業 株式会社 代表取締役 磯田 真左一	伊藤 正彦

### （優良業務知事表彰）

部門	工 事 名	会社名／代表者	主任技術者又は 管理技術者
農林水産設計	地すべり防止事業 報徳6ブロック 測量・調査・設計等業務	島建コンサルタント株式会社 代表取締役 多久和 豊	和田守 直行

#### 道 路

出雲三刀屋線（船津工区）  
防安交付金（改築）工事  
第4期  
（大福工業 株式会社）



#### 道 路

外園高松線（下横工区）  
防安交付金（改築）工事  
第5期  
（株式会社 トガノ建設）



#### 道 路

国道431号（園工区）防安  
交付金（災害防除）工事  
第3期  
（株式会社 神田工業）



#### 道 路

十六島直江停車場線  
西代橋 防安交付金（橋梁  
耐震）工事 第3期  
（出雲土建 株式会社）



#### 河 川

十間川 防安交付金  
（広域河川）工事 第8期  
（株式会社 ナカサン）



#### 港湾空港

河下港 港湾改修工事  
第23期  
（株式会社 中筋組）



#### 砂 防

大谷地区 事業間連携砂防  
等事業（地すべり対策）工事  
第10期  
（株式会社 コスモ建設コンサルタント）



#### 農業土木

令和2年度 農地整備事業  
簸川西地区 舗装工事  
（山陰建設工業 株式会社）





## 令和4年度（令和3年度完了） 島根県優良工事等所長表彰

### ◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工種	工事名	会社名／代表者	主任技術者又は 監理技術者	
土木	道路	出雲平田線（川跡工区） 防安交付金（改築）工事 第6期	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	武部 安治	
		（主）大社日御碕線 帆掛橋2号橋 防災安全交付金（橋梁修繕）工事	株式会社 中筋組 代表取締役 中筋 豊通	日野 彰	
		国道431号（国富工区） 防安交付金（改築）工事 第5期	山口建設 株式会社 代表取締役 山口 弥	寺本 英俊	
		稗原木次線（稗原工区） 県単緊急災害防除工事	有限会社 嘉村建設 代表取締役 嘉村 栄二	嘉村 慎次	
		十六島直江停車場線 西代橋 防安交付金（橋梁耐震）工事 第4期	株式会社 倉橋工務店 代表取締役 倉橋 一喜	金坂 篤	
	河川	九景川 県単河川緊急整備工事 第5期	山陰建設工業 株式会社 代表取締役 磯田 真左一	西 武志	
		塩冶赤川 県単河川緊急整備工事 第11期	今岡工業 株式会社 代表取締役 今岡 幹晴	山根 拓也	
	砂防	小伊津川 県単砂防修繕工事	有限会社 南場工務店 代表取締役 南場 操	原田 誠二	
	農林 水産	農業 土木	令和2年度 県営農地耕作条件改善事業 斐川下阿宮地区 取水施設整備（その4）工事	株式会社 フクダ 代表取締役 福田 弘道	

### ◇優良業務表彰及び優秀建設技術者表彰

部門	工事名	会社名／代表者	主任技術者又は 管理技術者
地質調査・ 測量・調査	地すべり対策事業 山寄地区 地質調査及び機構解析業務	島建コンサルタント 株式会社 代表取締役 多久和 豊	和田守 直行
土木設計	新内藤川 護岸詳細設計業務	出雲グリーン 株式会社 代表取締役 吾郷 直之	佐藤 恵介



## 優良工事知事表彰を受賞して



(株)神田工業

星野 敏郎

この度、国道431号（園工区）防災安全交付金（災害防除）工事 第3期に於いて優良工事知事表彰を賜り大変光栄に思っております。

当工事は斜面对策工事であり、工事箇所は松江市と出雲市を結ぶ重要な幹線で交通量も多く、歩道は通学路にもなっており、一畑電鉄の園駅にも近接していました。

この斜面对策工事の施工にあたり、現場の留意・注意すべき点が挙げられました。

- 1) 本工事は施工延長が長いうえ、緩い粘性土での斜面对策工事である。
- 2) 切土法面の地層境界付近からの法面崩壊を誘発する湧水が常に確認出来る。
- 3) 施工範囲の条件として、特殊工法（土系吹付工）「Hr ソイル工法」の採用。
- 4) 現場への進入路が1経路のため、工事用防護柵撤去、通学路でもある歩道の復旧、電柱移設等の調整が必要である。

上記に挙げる諸問題の解決や調整などに苦労しましたが、次の通り対処しました。

- 1) 本工事は施工延長が170mと長い斜面对策工事のため、切土法尻既設擁壁から撤去すれば、斜面の安定確保が出来なくなり、法面崩壊へと繋がる可能性が高いため、安全を第一に考え逆巻工法を採用し、切土・法面工は上部より完成させ、完成後下部の切土を施工しました。
- 2) 切土法面の地層境界からの湧水の軽減方法について検討・対策を行いました。
  - ① ボーリング調査により地下水位の観測
  - ② 浅層地下水排除のため、横ボーリング工にて掘進延長7.0mを間隔5.0mで25カ所設置し、法尻まで湧水を導水パイプにて誘導することで工事をスムーズかつ安全に行う事が出来ました。
- 3) 地元要望の緑化対策として、土系吹付工は自然土と主成分の酸化マグネシウムと固化材を混合したものを、法面に吹付し雑草防止及び浸食防止を図り、環境に配慮した工法で施工しました。
- 4) 現場への進入路が1経路のため、工事用防護柵撤去・対象法面下の側溝工事及び歩車舗装、別途発注工事の電柱移設における電力・電話等各社と密に連絡調整を行い、工事を安全に完成させることが出来ました。

本工事（第3期）を受注してから、長い期間に渡り無事故無災害で工事を完成させる事が出来たのは、発注者である出雲県土整備事務所ご担当課・ご担当者、工事に関わった協力会社の技術者の方々、朝陽小学校生徒の皆さん、地権者・土木委員・地元の皆様のご協力の賜であり、心よりお礼申し上げます。

最後に、今回の工事は自分自身にとって貴重な経験となりましたので、今後この経験を活かし、より良い工事が出来るよう尽力して参ります。





## 優良工事知事表彰を受賞して



(株)コスモ建設コンサルタント

玉木 慎吾

この度は、大谷地区 事業間連携砂防等事業（地すべり対策）工事 第10期に於きまして、高根県優秀建設技術者表彰を頂き、大変光栄に思っております。

本工事は、出雲市美野町大谷地内の地すべり防止区域内（国土交通省所管）に地すべり防止施設として集水井を設置するものです。

工事場所は出雲市役所平田支所より東北東へ約8kmに位置し、南側には宍道湖と国道431号があり国道と平行して一畑電車が通っています。

工事の概要は集水井工（H=10.5m、Φ3500mm、1基）、集水ボーリング工（上下段 n=21本、ΣL=1207m）、排水ボーリング工（L=100.9m、n=1本）、昇降用設備及び天蓋の施工が主なものです。

工事施工に先立ち社内でプロジェクトミーティングを行ったところ、現場での課題・留意すべき点が三つ挙げられました。

まず一つ目は集水井工事箇所への安全な資機材搬入ルート及び作業ヤードの確保でした。これには他地区の流用土で盛土と大型土のうの積み上げを行い、工事用道路と作業ヤードを造成し対応しました。また、本工事はクレーン作業が多くクレーン足場の徹底した安全管理が必要とされ、盛土材の作業床の安全対策として敷鉄板を布設し、クレーンの転倒防止に努めました。

二つ目は100mを超える排水ボーリングでした。当社が今まで施工した排水ボーリングの最大長は86mであり、経験のない長さである上、計画の出口高と宍道湖のHWLとの差が20cmしかなく、特に削孔高に注意が必要な状況でした。しかし、削孔を始めたところ途中で硬い岩盤に跳ね上げられ、計画の出口位置に対し4.1m高くなり、排水ボーリングとしての機能を果たせない状況となりました。この結果を踏まえ、発注者との協議や社内施工検討会において対応を議論し、再掘削を行う事としましたが、初回の掘削は緩勾配の地形と軟硬互層の地質に要因があると推察され、再掘削では、岩盤による跳ね上げを抑えるため勾配を急にして削孔する事と削孔中のボーリングマシンの変状、スライム、削孔水の色などをチェックし、慎重な機械操作を行う事ではほぼ計画通りの位置へ出すことができました。

三つ目はボーリング削孔時に出る音が反響して大きくなる為、近隣への騒音を低減する必要がありました。対策として防音シートを民家側に設置し、また、定期的に計測機器を使用して騒音の数値状況の確認をしていました。作業中は近隣住民宅に伺い、住民の方とコミュニケーションを取りながら進めて行きました。

また、当現場では新たな取り組みとして、現地確認を必要とする検査や立会に遠隔臨場を採用して受発注者の業務効率を図るために実施しました。（18回中6回実施1/3）

この他にも色々な課題が発生しましたが、無事工事を完成することができたのは、発注者である出雲県土整備事務所のご担当者様の迅速な対応、地元の皆様、協力会社の皆様、そして現場を支えてくれた社員、皆様の多大なるご理解とご協力であると心より感謝しております。

今回の工事は自分自身にとって貴重な経験となりました。今後も一層の工夫と安全でより良い工事ができるように努力していきたいと思っております。

ありがとうございました。



## 島根県優良工事知事表彰を受賞して



山陰建設工業(株)

伊藤 正彦

この度、農地整備事業簸川西地区舗装工事に於いて優良工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

本工事は、歩道の新設が主であり、カーブが多く見通しが悪い為、既存の側溝の位置や車道の舗装位置を変更することで、緩やかなカーブに是正し見通しの良い道路を造る工事でした。

現場は「にしはま海岸大橋」の東側に位置し、海岸に面した道路から防風林がある西浜イモの栽培が盛んな平野を結ぶ狭間の現場でした。そこは海から風が集まってきてビル風のような強風が吹く、風の通り道になっており、自然の力との向き合い方に大変苦勞しました。現場の土質は細砂であり、強風によって法面の砂が削られたり、工事看板などの仮設物が飛散する可能性が高い場所でした。法面保護のためにシート張りを試みても、長くはもたず、砂の飛散が懸念されたため、放置することにより災害が起こる可能性が高い所を優先して工事を進めるよう工程管理を再度検討しました。また、辺りが砂地なため、看板一つ立てることに対しても工夫が必要で、重石や杭で支えるのではなく、単管を打つなどして、看板の根本の砂が風で抉り取られても飛ばないようにしたり、看板の枠のビス止めを通常より倍に増やすなどして飛散防止に取り組みました。

車道の工事については、カーブを緩くし見通しを良くするため、既存のアスファルト修繕と新設工事の両方を同時に進めていくような難しい作業を行いました。徐々に工事を進めていく中で、次第にカーブが緩くなっていくと一般車両は、よりスピードが出やすくなり、夜は不慣れな道に加え、街灯もなく危険なため、公衆災害防止を第一に工事を進める検討を重ねました。検討・協議した結果、終日片側交互通行を行う事となりました。規制の仕方、一般車両への分かりやすい誘導表示、夜間は仮設信号機の使用時間を検討し誘導員による日中や朝夕の通勤・帰宅時間帯の混雑緩和を工夫したことにより、事故の防止に繋がったと思っています。

最後になりましたが、地元の皆様を初め、発注者、協力会社の皆様に多大なご理解とご協力を頂き、無事故・無災害で工事を完成する事ができました。皆様本当にありがとうございました。今後も経験を活かし労働災害の防止、環境への十分な配慮、経済的な施工技術の開発、建設業のイメージアップなどに意欲をもって取り組みたいと思います。





## 第59回 全国建災防大会に参加し思うこと



安全委員

仙田 考生〔山陰建設工業(株)〕

私たち安全委員は、令和4年10月6日・7日に開催された「第59回 全国建設業労働災害防止大会」に参加しました。今年は石川県金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター等」が会場となり、全国の会員及び関係者延べ5700人が参加する盛大なものでした。

初日は、会場までのシャトルバスの遅れなどのトラブルがありましたが、開会間もなくの来賓挨拶には入場できました。厚生労働大臣、国土交通大臣の挨拶の後、石川県知事、金沢市長、大会実行委員長からの歓迎のことばがありました。

その後、安全衛生功労者の表彰・顕彰が執り行われました。この度の表彰におきまして、私も関係皆様方のご推薦、お力添えのおかげで「功績賞」として立派な盾を頂くことができました。平成29年の春より、安全指導者として建災防出雲分会に参加させて頂きましたが、毎回の安全パトロールは安全活動の指導と言うより、常に教を乞う事が多く、勉強させて頂きながらの取り組みであったと感じています。

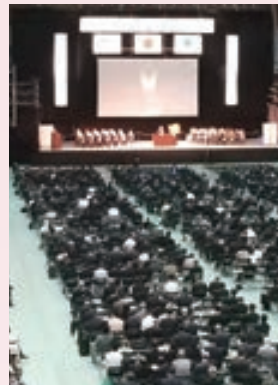
ご指導頂きました幹部諸先輩方々、支えて下さった関係皆様、本当に有難うございました。

今回の開会式の内容として取り上げられたのが、令和3年度実績における死亡災害の増加と、休業4日以上死傷者数の増加でした。建災防 今井会長のお言葉に、本年度は平成30年度に策定した「第8次建設業労働災害防止5ヶ年計画」の最終年度でもあり、目標達成へのさらなる取組み努力が必要と述べられた上、「建災防としての存在意義が問われている」との危機感について触れておられました。残念ながら島根県においても、労働災害はここ近年、横這い又は微増する傾向にあり、出雲地区も同様の状況が見受けられます。

私たちが定期的に実施する安全パトロールの講評を分析すると、各事業者の安全管理に対する意識は、年々高い水準にて行われているように感じていますが、なぜ労働災害の減り方が鈍化するのでしょうか。私たちが目標にしているのは「無災害」です。何も起きない事を目標に対策を行う、ある意味非常に困難で、現在の業界技術では完遂できない「目に見えない課題」に取り組んでいます。しかしそれならば「継続こそが力なり」だと思いました。出雲分会は「安全は出雲から」と長年、活動方針に掲げて来られました。この言葉を引き継いだ今、これを継続し、次の世代に託せるよう今後も活動に取り組んでいきたいと強く感じました。

最後に、本大会のスローガンは「高めよう 一人ひとりの安全意識 みんなで目指そう リスクの低減」と掲げられていました。個々の安全意識が広く浸透すれば、労働災害が激減するに違いありません。

ご安全に。



いしかわ総合スポーツセンターにて

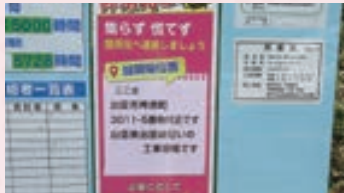
## 令和4年度 安全パトロール

建設業労働災害防止協会（建災防）鳥根県支部出雲分会では、建設現場での労働災害防止を図るため、毎年安全パトロールを実施しています。

### 令和4年度12月までの実施状況

- ・第1回安全パトロール 令和4年 7月26日（火）3現場
  - ・夜間安全パトロール 令和4年 8月 5日（金）2現場
  - ・特別安全パトロール 令和4年10月11日（火）4現場  
（労働基準監督署・出雲県土整備事務所・建災防本部・建災防鳥根県支部・安全委員）
  - ・役所合同パトロール 令和4年11月10日（木）3現場  
（労働基準監督署・出雲県土整備事務所・正副分会長・安全委員）
  - ・夜間安全パトロール 令和4年12月22日（木）2現場
- ※特別パトロール、役所合同パトロール以外は、出雲分会安全委員で行います。

#### 安全パトロール



緊急時連絡先の明示



現場内太陽光パネル設置

#### 特別パトロール



週休二日確保の取り組み



女性用トイレの完備

#### 夜間パトロール



夜間パトロールの安全対策

#### 役所合同パトロール



安全書類のチェック



安全対策（段差注意）の確認



現場事務所内の掲示物

建災防出雲分会の現場パトロールの実施には各会員企業はじめ、各現場所長様にはご理解ご協力頂き誠にありがとうございます。

現場パトロールを通じて労基署・発注者・建災防本部の方々にも同行いただき、現場で安全に作業を進めることがいかに難しい事であるか理解を深めて頂く良い機会にもなっていると思います。

新型コロナウイルスの発生から3年が過ぎ未だ終息も見られない状況ですが、医療関係従事者・関連行政機関等の方々のご負担を軽減できるよう日々の作業を進める必要があります。安全は協調性と誰もが現場で自分とどう向き合えるかではないかと思えます。

本年もいろんな現場の良い所、アイデア・工夫を見せて頂ければと思っています。

本年も「安全は出雲から！」よろしくお願い申し上げます。



## 令和4年度 安全研修会

令和4年度の安全研修会を下記のとおり開催し、現場代理人・主任技術者等関係の方々88名のご参加をいただきました。

共同開催

建設業労働災害防止協会島根県支部出雲分会  
一般社団法人出雲市建設業協会

開催日:令和4年9月28日(水)

会場:ニューウェルシティ出雲

研修:①「過去の労働災害から明らかになった問題点」

出雲労働基準監督署

安全衛生課長 田淵和正 氏

②「これまでのコロナとこれからの感染症への対策・対処・対応法  
—“自分を守る”,“他人を護る”—」

松江赤十字病院

感染症管理室長 成相昭吉 氏



出雲労働基準監督署 安全衛生課長 田淵和正氏



松江赤十字病院 感染症管理室長 成相昭吉氏

新型コロナの発生から3年、いまだ終息することなく猛威を振るっている状況です。建設現場で発生すると事業がストップして、工程に影響を及ぼすことになり、企業にとっては大きな負担となります。対策としては、マスクの着用や手の消毒等基本的なことではありますが、地道に感染対策を行っていくことが重要ではないでしょうか。今年は、新型コロナも収まって通常どおりの生活に戻るよう、期待したいと思います。



## 東京研修旅行記

経営改善研究委員

手銭 弘明〔有神門組〕



コロナ禍で自粛しておりました研修旅行でしたが、今回4年ぶりに実施されました。旅先は東京方面で、9月8日から9月10日の二泊三日の旅でした。最近県外へ出る機会がめっきり少なくなった私にとって、一抹の不安を抱えながらも日常を離れ、大いに楽しんで空路の旅となりました。以下順を追って記します。

初日は、庭園が見事な港区八芳園にて昼食後、味の素ナショナルトレーニングセンター・イーストの見学から始まりました。これら施設は日本初のトップレベル競技者用トレーニング施設として設置され、JOC及びJOC加盟競技団体に所属する選手・スタッフが専用で利用しています。将来オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を恒常的に育成すべく、その充実した施設規模に驚かされました。夕食は過門香 赤坂溜池山王店にて地元国会議員の先生方との懇談が企画され、ご多用のところお出かけいただきました。東京にあって郷土への強い想いを語っていただき、いろいろお話を聞くことができ、たいへん貴重な経験をさせていただきました。



東京ドームグラウンド・ベンチにて（観光組）

2日目はゴルフ組と観光組に分かれ、観光は午前中東京ドーム見学・昼は浅草演芸ホールにて臨場感溢れる寄席・落語を鑑賞し、江戸っ子の心意気を感じたのち、しばらく貸切バスに揺られて小金井市にある江戸東京たてもの園を散策しました。失われてゆく江戸・東京の歴史的な建物を移築保存し展示する目的で、江戸時代から昭和初期までの30棟の建造物を移築復元し展示されておりました。夜は浮かぶ料亭「晴美屋」の屋形船でお台場・スカイツリー周遊コー



姉ヶ崎カントリー倶楽部（ゴルフ組）

スを巡り、旅の締めくくりに船上懇親会となりました。揚げたての天ぷらとお酒で大いに盛り上がり、勝どき橋を通過したら東京湾ですという解説を最後に、船酔い？をしたものと思われ、気が付くと連泊先の三井ガーデンホテル銀座プレミアへの帰途となっております。



味の素ナショナルトレーニングセンター

明けて翌朝から自由行動（個人的には、親戚と久しぶりの対面）ののち、空路無事出雲に到着しました。なにはともあれ、ウィズコロナとともに旅をした皆様と親交を深めることができました。

終わりにりましたが、準備お世話頂いた関係各位に心より感謝申し上げます。



## 経営研修会 2022

経営改善研究委員

山根 強〔有山根建設〕



令和4年度の「経営研修会」を下記のとおり開催しました。

開催日:令和4年11月18日(火)

会 場:出雲建設会館

演 題:ウクライナ情勢を受けての法人移転とウクライナ避難民支援

講 師:合同会社 SAMI J a p a n 代 表 牧 野 寛 氏

同行者 アファナセフ ボリス 氏



出雲市在住の SAMI Japan 代表の牧野様、アファナセフ ボリス様にウクライナ情勢についてのご講演を賜りました。

ロシアで企業し在住しておられた牧野さんがウクライナ侵攻時から日本に帰還されるまでの実際に現地体験されたことを話されました。また、ボリスさんは反戦デモに参加し警察に拘留された体験の話もありました。

ウクライナ侵攻後、日々激変する国内情勢の中で SNS 等の言論統制とその厳罰化（反政府メッセージに懲役 15 年）や反戦デモの武力鎮圧、ロシアへの経済制裁等によるアジア空路の封鎖、国際送金の禁止などから現地スタッフの安全確保と健全な会社運営ができないと判断され、空路が閉ざされていく中、ギリギリのタイミングで現地スタッフを国外避難させ日本に帰還されたそうです。

ウクライナの避難民の話ではウクライナは優秀な IT 技術者が多く、そのような仕事をしておられる方は隣国へ避難しても就職先があるが、そうでない人は言葉の壁があり、就労先がなく仕方なくウクライナへ帰国せざるえない方が沢山おられる話もされました。日本へのウクライナ避難民の支援活動をするなかで、日本との距離、言葉や就労先、居住先等の問題で受入れ支援が進まないとのことがありました。

毎日メディアで報道されている世界規模の問題ですが、遠い国の戦争であり詳しく知ろうとすることはありませんでした。この出雲の地からウクライナ支援に尽力されている講師先生の講演を拝聴し、ウクライナやロシアの現状を知り、この問題を考えさせられる貴重な場であったと思います。

なによりもこの戦争が一日も早く終息し、ウクライナに平穏な日が戻ることを切に願います。

# 令和4年度 放水路記念館まつり



11月18日は  
土木の日

～のぞいてみよう どぼくの世界～



土木  
十一

1987年に、土木の2文字を分解すると十一と十八になることから、11月18日を「土木の日」と制定しました。

11月18日の「土木の日」。当協会では、土木にちなんだイベントを開催し、建設業の担う役割や使命そして魅力をアピールしています。

令和4年11月19日（土）に開催した「放水路記念館まつり」は、コロナの影響により3年ぶりの開催となりました。

会場の放水路記念館では、「各種の模型展示と実験」「木工細工・ファブリックパネルなどのものづくり」「ミニチュア重機を使った遊び」「ドローンの展示と飛行実演」「各種の建設機械の展示と搭乗体験」など、多彩な催しを行いました。

中でも木を使ったものづくり体験（木工細工）では、木の枝や木の実を使用して思い思いの作品を作っている子供達の姿が印象的でした。

今年は小学生の親子連れなど約1400名の方にご来場いただき、これまでにない大盛況となりました。

このイベントを通じて、地域の方には建設業の重要性を再認識していただき、また参加した子供たちには建設業に興味をもってもらい、“将来は建設業に就きたいな”と思う気持ちが少しでも湧いてくれれば嬉しいことです。





# インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年、出雲農林高等学校、出雲工業高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

## インターンシップ体験談

### インターンシップを終えて



島根県立出雲農林高等学校

環境科学科 2年 柳樂 貫希

4日間のインターンシップを終え沢山のことを体験することができました。自分が一番心に残っていることは、ドローンの操縦やVR体験などのICT機器の操作です。今の現場は人口減少から人手が足りない状況です。その中で昔と同じように作業を行うと時間がかかってしまいます。そこにICT機器を導入することで人手不足を補い、むしろ昔よりも早く正確な作業ができます。実際にドローンの操作とVRの体験をしましたが、あまり見慣れない機械でとても緊張し、操作も難しく感じました。しかし、レバー操作は急に動かしたり離したりするのではなく、ゆっくり動かすと上手く操作できるなどコツを教えてもらい、気を付けることもたくさんありましたが、貴重な経験をさせていただきました。

この4日間、毎日違う内容を体験させてもらい、様々なことを学ぶことができました。

一日目は出雲環境技術センターで環境分析をしました。環境分析とは、土や水に含まれている重金属の濃度の分析をすることです。分析をすることで、人の健康や生態系を守ることに繋がります。僕はそれと建設業とどのような関係があるのだろうと思いました。お話を聞くと、「何か建物を建てる前にその土地の土は安全なのか、人間にとって有害ではないのか」などを調べる必要があるそうです。環境技術センターではその土を調べることを行っていました。環境分析をする時に水を使います。その水は水道水の水ではなく、純水や超純水という水を使わなければいけません。僕たちは環境分析の中でも六価クロムの測定とPHの測定を行いました。この測定では、直接手で触れては危険な薬品を扱ったり、多くの計算をしなければならないものがあつたりして、とても大変でしたがうまく調査ができました。

2日目も環境技術センターに伺いました。2日目は突き固めによる土の締め固め試験と、土

の粒度試験（ふるい分析）を行いました。突き固めによる土の締め固め試験は「この土には水分量をどれくらい入れたら一番締め固まるのか」ということを試験するもので、粒度試験は土の粒度をいろいろな大きさのふるいにかけて試験するものです。この試験はやり直しがきかないものだったので、一つ一つの作業を責任持って丁寧にすることができました。

3日目、4日目は湖陵多岐道路と大田静間道路の現場へ行きました。そこでは普段の学校では見ることのできない大型機械や、最新の機械、ICT機器などを見ることができました。現場では沢山の大型機械が狭い道を通りながらも滞りなく作業が進んでいました。その光景を見て、常に周りを見て連携を取っておられるなど感じました。僕も実際に機械に乗ったり操作させてもらったりしましたが、たくさんの方に注意し気を付けながら作業しなければならないなど思いました。

この4日間のインターンシップで、基礎的なことから専門的なことまで、普段の学校生活では得られないことを学ぶことができるとも貴重な経験になりました。と同時に、仕事は自分の会社だけで出来るのではなく、他の会社と協力して行うことも知り、とても責任あるものだと改めて感じました。

今回学んだことを忘れず、今後の学校生活や進路決定に向けて活かしていきたいと思いました。

### インターンシップを通して

島根県立出雲工業高等学校

建築科2年 矢倉 琉生



私は今回のインターンシップで、教科書ではわからない建設現場での仕事内容や建築の面白さを学ぶことができました。今まで私は、施工管理の仕事は工事全体の管理や職人さんへの指示だけだと思っていました。しかし実際の建設現場で体験をさせていただく中で、お客さんとの話し合いや、軽作業などの仕事もあるということを知ることができました。

建設現場や事業所ではたくさんの質問をさせていただきました。その際、「建築の仕事は何もないところに新たに建物をつくり、その建物がこの先何年、何十年、何百年と地図に残る仕事だ」という言葉がとても印象に残りました。その言葉通り、現場で働く皆さんの表情や、仕事に向き合う姿勢からお客さんに喜んでもらうだけではなく、楽しさややりがいを感じながら仕事をされているんだと感じました。

私は、この2日間でたくさんの経験や勉強をさせていただきました。私は1年半、建築の勉強をしてきましたが、実際に現場に出たらわからないことだらけでした。そのため、これからの学校生活でより積極的に建築の勉強に励む必要があると強く感じました。今回のインターンシップを体験したからこそ感じた建築の「やりがい」や「おもしろさ」は私にとって大きな収穫でした。この体験をこれからの学校での勉強や、進路選択に活かしていきたいと思います。この3日間私たちを受け入れていただいた企業の皆様、本当にありがとうございました。



# 貸し会議室のご案内

各種 講習会・研修会・会議にご利用ください。

## 1F 101 会議室



## 2F 201 会議室



## 2F 大会議室



取扱備品  
 プロジェクター  
 スクリーン  
 マイク  
 ピンマイク  
 ホワイトボード  
 ビデオ・DVDデッキ

## 駐車場完備



最大収容台数60台  
 無料駐車場

区 分	午 前 9:00～12:00	午 後 13:00～17:00	全 日 9:00～17:00
1 F 101 会議室 (12名)	1,500円	2,000円	4,000円
2 F 大会議室 (100名)	8,000円	9,000円	16,000円
201 会議室 (25名)	2,000円	2,500円	4,000円
※カッコ内の人数は最大収容人数です。			

お問い合わせ  
 ご予約はこちらまで

**(株)出雲建設会館**

出雲市塩冶善行町 2-2

☎ 0853-21-1187

受付時間 平日 8:30～17:00

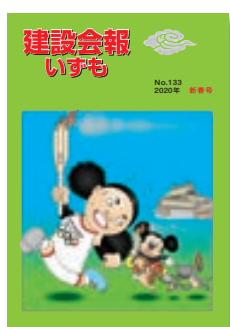
# 編集後記

令和4年を振り返りますと、新型コロナウイルスが流行し丸3年が経過しましたが、未だに私たちの生活へ様々な影響を及ぼしております。また、安倍元首相の銃撃、ロシア軍のウクライナへの軍事侵攻、32年ぶり円安水準、急激な物価高騰等、国民にとっては不安に満ちた混沌とした激動の一年間だったのではないのでしょうか。

明けない夜はありません。新年はきっと良い年になると信じております。

さて、協会設立初年度より発刊しております本会報ですが、今号で「136号」を発刊することができました。これまでご愛顧いただきありがとうございます。本年度の発刊予定の「137号」より、リニューアルし電子版化する計画ですので皆様、楽しみにお待ちください。

経営改善研究委員 三島 一男〔ミシマ産業(株)〕







一般社団法人

## 島根県出雲地区建設業協会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)